

**CASBEE-広島 (2010年ver.1)**  
**(仮称)広島大学霞キャンパス立体駐車場新築工事**

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります  
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2009年版  
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1 暗騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温設定								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間外空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3.3 照度								
1 照度								
2 照度均斉度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
3 ダニ・カビ等								
4 レジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43					<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
<b>2 耐用性・信頼性</b>		3.1	0.52					<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.33					
1 躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準(劣化の軽減に関する事)で等級3相当	5.0	0.50					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外装現しの為、内装無し	2.0	0.50					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	-					
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	-					

2.3 適切な更新			-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-
1	空調・換気設備		-	-	-	-
2	給排水・衛生設備		-	-	-	-
3	電気設備		3.0	1.00	-	-
4	機械・配管支持方法		-	-	-	-
5	通信・情報設備		-	-	-	-
3 対応性・更新性			3.2	0.48	-	-
3.1 空間のゆとり			2.2	0.31	-	-
1	階高のゆとり		1.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁(外装)長さ比率が0.105でありレベル4となります	4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			4.2	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		-	-	-	-
2	給排水管の更新性		-	-	-	-
3	電気配線の更新性	床は埋設配管、以外は大部分を露出配線(配管)とし、更新・修繕時に建物機能を維持出来る状況とした。	5.0	0.20	-	-
4	通信配線の更新性		-	-	-	-
5	設備機器の更新性	機器は建物機能を維持出来る状態で更新・修繕が出来る。	5.0	0.40	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.40	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		LED照明を採用します ERR=84	5.0	0.43	-	-
4 効率的運用			3.0	0.29	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			-	-	-	-
1.1	節水		-	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		-	-	-	-
2	雑排水再利システム導入の有無		-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.74	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	EV棟 ビニル床材	3.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材(外装)は容易に分別でき、解体時も容易に取外しが可能。	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.26	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用	対象物質を含有しない建材種別が4つあり、レベル5となります	5.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1	消火剤	フロン、ハロンガスは使用していない	4.0	1.00	-	-
2	断熱材		-	-	-	-
3	冷媒		-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクル排出率は69%でありレベル5である	5.0	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用しておらず、対象建築物から大気汚染物質は発生しない	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	-	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.50	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.50	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	照明環境Ⅱの領域で上方光束比4.4%以下のランプを使用します	4.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-